

ボランティアやNPOとの 連携方策にかかる提言

平成22年7月28日

厚生労働省若手PT

Dチーム（ボランティア・NPO連携チーム）

*問題意識

日々の暮らしの中で・・・

自分の力では解決できない問題がある



行政が解決できない問題がある



解決できない問題
一体、どうしているのか？

*もれのない支援のために

自助・公助で解決できない問題



「共助」

周囲や地域が協力・支え合い
NPOやボランティアの活躍



国民のニーズをもれなくカバーするためには
NPO・ボランティアとの連携が重要

*厚生労働省の組織目標

■自助・共助・公助の適切な組合せ

自助・共助・公助それぞれの考え方の整理と役割分担の明確化を図る。

とりわけ**共助**については、「新しい公共」の考え方の下、**幅広い民の力を結集**する政策を実行する。



目標達成のためには、「船」と「**羅針盤**」が必要

*組織の設置と基本指針の策定



→ 縦割りの弊害をなくし、**組織目標を力強く推進**するため、

厚生労働省内にNPO・ボランティアとの協働推進のための**組織**を設置

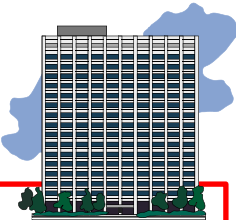


→ NPO・ボランティアと目指すべき**方向性を定める**ため、

厚生労働省としてNPO・ボランティアとの協働に関する**基本指針**を策定

*新たな組織とは

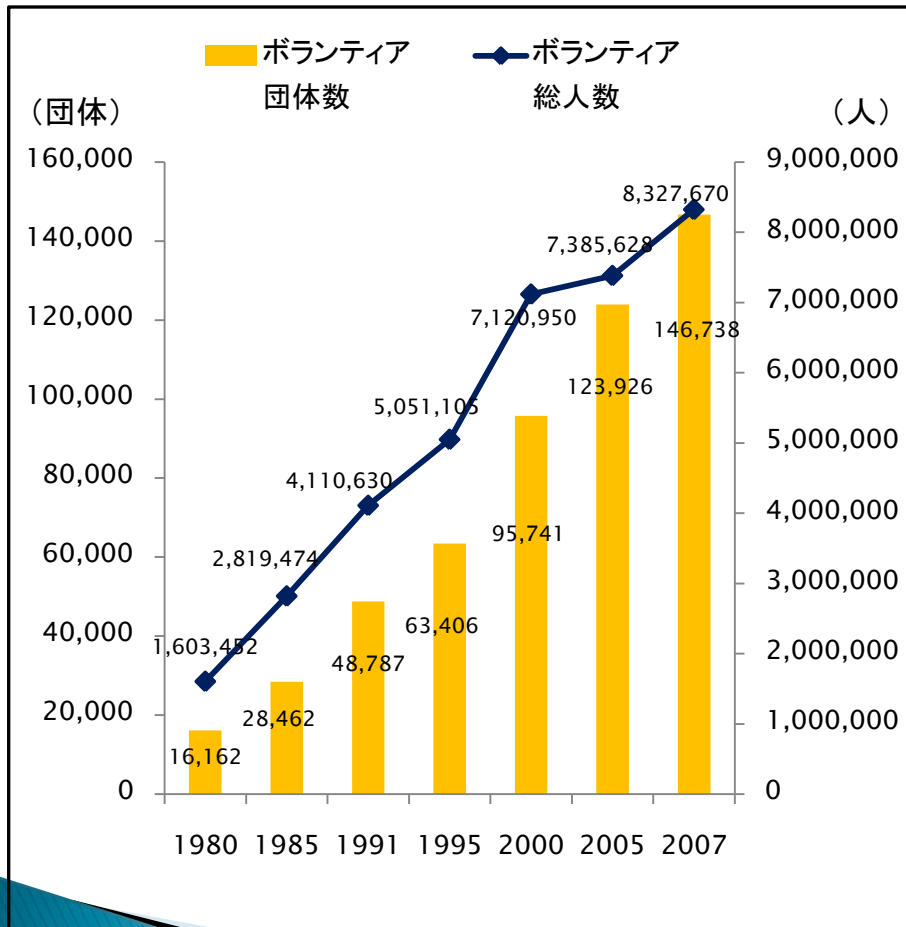
- 1 民間人の登用（民間の発想、現場の視点）
- 2 政策決定過程の見える化（透明性の確保）
- 3 衆知の結集（アイディアの競争、IT活用）



国民が政策過程に参加できる組織

*心強い仲間（パートナー）が増えている

◆ボランティア団体数及び活動者数の推移



【出典】全国社会福祉協議会（平成22年3月）「ボランティア活動年報2009」

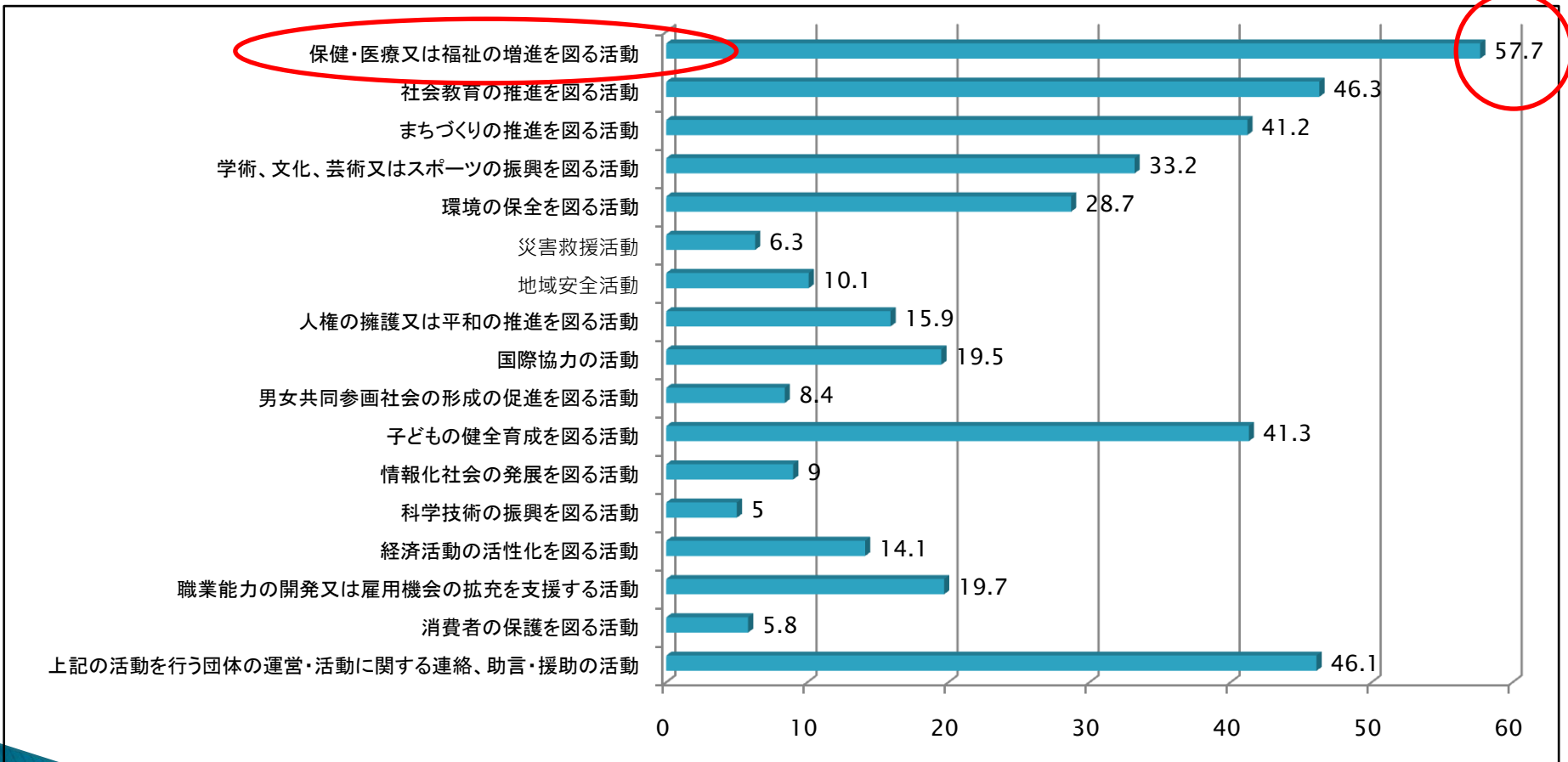
◆NPO法人認証件数の推移



【出所】内閣府HPを基に作成

* 厚生労働行政に関する活動分野が多い

◆NPO法人の活動分野の割合（2010/3/31現在）



(注)一つの法人が複数の活動分野の活動を行う場合があるため、合計は100%になりません。

【出所】内閣府HPを基に作成

*4つのビジョン ～目指すべき社会像～

民と官の
協働社会

多くの高齢者が
活躍できる社会

目指すべき
社会像

NPO等の力を
引き出す社会

財源を有効活用し、
公共サービスを充実
させられる社会

*3つの視点 ～提言を行う前に～

1人の生活者
としての視点

環境整備主体
としての視点

雇用創出
の視点

*提言

組織目標を力強く推進

厚生労働省内に「NPO・ボランティアとの協働推進のための組織」を設置

NPO・ボランティアと目指すべき方向性を定める

厚生労働省としてNPO・ボランティアとの協働にかかる基本指針を示す

必要なサービスを確実に届ける仕組みを確立

- ・連携支援組織を市町村ごとに設置
- ・地域の基軸となる人材を育成

NPO法人を働く場として社会的に確立、より一層活躍できる仕組みを整備

NPO法人の社会的評価を行う仕組みと雇用の創出を生み出す環境を整備

NPOやボランティア活動の理解を促進

- ・NPO・ボランティア活動参加休暇制度を導入
- ・NPO等の成果発表の場を用意

企業活動を通じた地域または社会的課題の解決

企業の社会的貢献活動を推進

*提言

厚生労働省から先進をきって取り組みを推進する

- 1 厚生労働省の職員の1人1人が国や地方の**財政状況**に**危機感**を持ち、常に費用対効果の視点を意識すること
- 2 厚生労働省の職員1人1人がNPO等との**協働への意識**を高めること
- 3 厚生労働省の職員に関しては、**地域活動への参加**や**地域活動への理解を促進する研修**等の受講を義務付けて、昇格等の人事考課の対象とすること
- 4 相互理解を深めるため、厚生労働省の職員の**NPO法人における研修**や**NPO法人等の有識者による研修**を行うこと

*厚生労働省

“困った”を

“よかった”に

“変える”組織として

ご清聴ありがとうございました！

若手PT Dチーム